



第 64 回日本リハビリテーション医学会関東地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日 時：2016 年 10 月 1 日（土）12：30 ～ 19：00

会 場：新潟医療人育成センター（新潟大学医学部旭町キャンパス内）

〒 951-8520 新潟県新潟市中央区旭町一番町 757 番地 Tel 025-227-2035

会 長：村岡 幹夫（亀田第一病院リハビリテーション科）



参加費等：地方会参加費 2,000 円、生涯教育研修会 1 講演 1,000 円

日本整形外科学会教育研修会 1 講演 1,000 円

単位認定：地方会参加 10 単位（筆頭演者はさらに年度末自己申請により 1 演題 10 単位）

生涯教育研修会 1 講演 10 単位（2 講演で 20 単位）

日本整形外科学会教育研修会 1 講演 1 単位（2 講演で 2 単位）

必須分野：講演 1；〔8・13〕、講演 2；〔9・13〕

日整会単位申請には IC 会員カードが必要です。必ずご持参ください

利益相反について：日本リハ医学会が定める「利益相反の管理に関する申し合わせ」に従って
ください。利益相反がない場合も、スライドで掲示してください。

第 64 回日本リハビリテーション医学会関東地方会

地方会担当幹事：村岡 幹夫

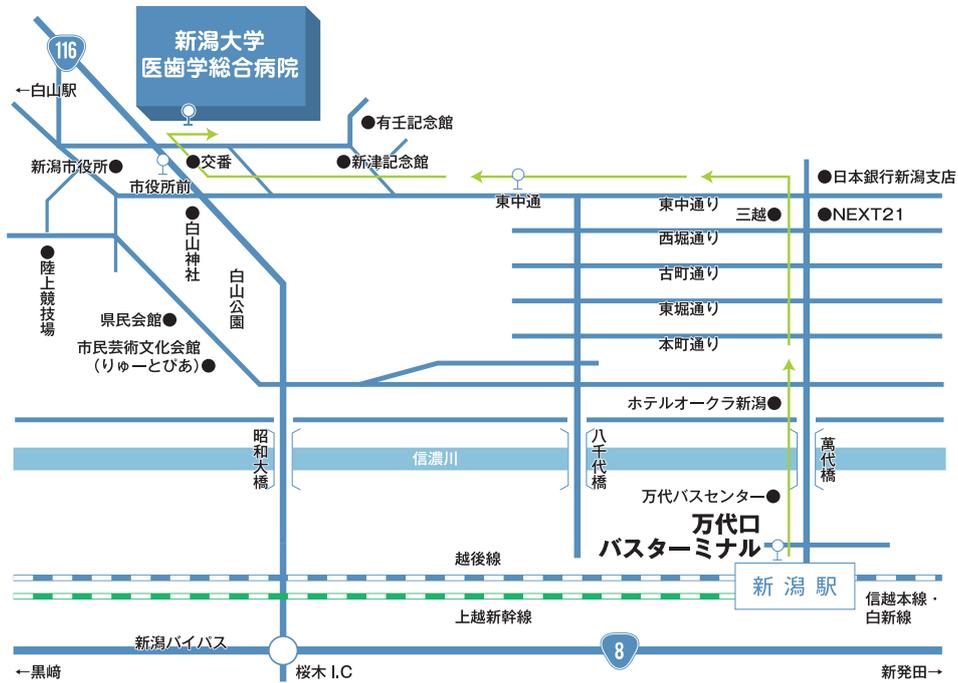
〒 950-0165 新潟市江南区西町 2-5-22 TEL：025-382-3111 FAX：025-382-7311

医療法人愛仁会 亀田第一病院 リハビリテーション科

E-mail：kamereha@ijn.or.jp 担当事務：遠藤・岡崎

アクセス

- ・新潟駅万代口からタクシー利用



新潟駅万代口からタクシーで約 10 分

- ・車でお越しの場合



職員駐車場（西門駐車場）を開放いたしますので、ご利用ください

参加者の皆様へ

* プログラムは当日配布致しませんので、必ずご持参ください。

1. 受付にて参加費 2,000 円と引き換えに領収書と青色の参加カードをお受け取りください。
半券をお手元に保存し、必要事項を記入したカードを専用の箱にお入れください。
2. 生涯教育研修会にご参加の方は、1 講演につき受講料 1,000 円をお支払いいただき、領収書をお受け取りください。専門医・認定臨床医資格更新のための単位取得をご希望の方は、お申し出の上、白色の受講カードをお受け取りください。認定臨床医受験資格取得のための単位取得をご希望の方は、お申し出の上、オレンジ色の受講カードをお受け取りください。いずれの受講カードも、半券をお手元に保存し、記入済みのカードは講演終了後、専用の箱にお入れください。
3. 日本整形外科学会教育研修会にご参加の方は、1 講演につき受講料 1,000 円をお支払いいただき、領収書と受講引換券をお受け取りください。講演会場に入場の際、受講引換券を係員に渡し、会員カードをカードリーダーにかざしてください。

一般演題ご発表の先生方へ

1. 発表時間は、演題 1～12 までは 7 分（発表 5 分、討論 2 分）、演題 13～28 までは 8 分（発表 6 分、討論 2 分）です。発表時間は厳守してください。発表は PC を使用します。スライドやビデオは使用できませんのでご注意ください。発表データは、USB メモリ、CD-R、PC 本体いずれかの形式でお持込ください。
2. 講演開始 30 分前までに、PC 受付にて発表データの試写と受付を済ませてください。
3. 液晶プロジェクターの解像度は XGA（1024 × 768 ピクセル）です。
データ表示における不具合を避けるために、下記の OS 標準フォントをお使いください。
日本語：MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝
英語：Arial、Arial Black、Century、Century Gothic、Times New Roman
記号表記の場合（推奨）：Symbol など
PowerPoint2013 をお使いの場合、下記にご留意ください。
初期設定では、「スライドサイズが 16：9」、「発表者ツールが有効」になっています。
 - 1) スライドのサイズを「画面にあわせる（4：3）」に変更してからデータを作成してください。
 - 2) “スライドショー”の項目で“発表者ツールを使用する”のチェックを外してください。

4. USB メモリ、CD-R をお持込の方への注意事項

- (1) ウイルスチェックは最新の定義ファイルを用いて必ず行っておいてください。
- (2) ソフトは、Windows 版 PowerPoint2010 または 2013 をご使用ください。Macintosh をご使用の方は、ご自身の PC をお持込ください。
- (3) 動画ファイルをご使用の場合、再生に問題のないご自身の PC 本体をお持込になることを推奨します。

5. PC お持込の方への注意事項

- (1) バックアップとして必ず USB メモリ等をご持参ください。
- (2) プロジェクターとの接続ケーブルは Dsub-15 ピンです。PC によっては専用のコネクタが必要となる場合がありますので、必ずご持参ください。
- (3) コンセント用電源アダプタを必ずご持参ください。

6. 日本リハビリテーション医学会誌「Jpn J Rehabil Med」掲載用の抄録原稿「演題名、演者名、演者所属、抄録（本文400字以内厳守）」を作成し、デジタルデータとして、9月30日までに事務局宛（kamereha@ijn.or.jp）に提出してください。

7. 発表が次の順番になりましたら、次演者席にて待機してください。

第 64 回日本リハビリテーション医学会関東地方会プログラム

【第 1 部】 12 : 30 ~ 13 : 40

座長：大西 康史（南魚沼市民病院リハビリテーション科）

1. 長期リハビリテーションを継続している分娩麻痺の一例
新潟大学医歯学総合病院 総合臨床研修センター¹、リハビリテーション科²
居城 甫¹、野本規絵²、木村慎二²、張替 徹²、眞田菜緒²、遠藤直人²
2. 重度下肢痙性麻痺に対してボツリヌス毒素療法が奏功した頸椎化膿性脊椎炎の 1 例
新潟県立中央病院整形外科¹、上越地域医療センター病院内科・リハビリテーション科²
保坂 登¹、野崎和也²
3. 腰椎圧迫骨折治療中に多発性骨髄腫が判明した一例
日高病院リハビリテーションセンター
中島慶子、坐間 朗、栗原秀行
4. 小児麻痺に伴う尖足、腱延長術後、健側下肢に神経根症を発症した腰部脊柱管狭窄症患者に手術的加療を行った一例
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーション科¹、東京医科歯科大学附属病院リハビリテーション科²、東京医科歯科大学大学院整形外科学³
請川 大¹、正岡智和¹、川手信行¹、飯島伸介¹、星 忠成¹、杉山智子¹、和田義敬¹、森田定雄²、神野哲也^{2,3}、酒井朋子^{2,3}、瀬川裕子^{2,3}、星野ちさと²、大川 淳^{2,3}
5. 「受容しない」を受容する。－発達障害をもつ脊髄損傷患者の治療経験から－
会田記念リハビリテーション病院¹、茨城県立医療大学医科学センター精神科²
五十嵐康美¹、今村 剛¹、斎藤亜野¹、山川百合子²
6. 気管癌周術期に頸椎伸展制限装具を処方した 2 例
筑波大学附属病院 リハビリテーション科¹、リハビリテーション部²
遠藤 歩¹、上野友之¹、清水如代¹、湯原 民²、丸山 剛²、石川公久²、羽田康司¹
7. 認知症に脳梗塞を合併し、在宅復帰に難渋した 47 歳男性症例
北里大学東病院 リハビリテーション科¹、リハビリテーション部²、北里大学病院神経内科³
正木瑤子¹、福田倫也¹、雪本由美²、日比洋子¹、中澤俊之¹、井島大輔³、西山和利³

8. 傍腫瘍性小脳失調症・Lambert-Eaton 症候群で発症し、リハビリテーション介入により、QOL が向上した原発不明小細胞癌の 1 症例

横浜市立みなと赤十字病院 リハビリテーションセンター¹、神経内科²

松本 卓¹、森田満恵¹、蔵合勇斗¹、河野美有紀¹、鈴木基弘²、田中宏明²、新井雅信¹

9. 重症熱中症により高次脳機能障害を来した 1 例

杏林大学医学部リハビリテーション医学教室

松田恭平、山田 深、岡島康友

【第 2 部】 13:40 ~ 14:50

座長：張替 徹（下越病院リハビリテーション科）

10. 右片麻痺と右下腿切断の重複障害に両下肢関節拘縮を合併した症例に対する義足作製

独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院リハビリテーション科

広瀬典子

11. アトモキシチン内服投与下での反復性経頭蓋磁気刺激、リハビリテーション併用療法で注意障害と失調の改善を認めた一例

東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座

羽田拓也、坪井麻里佳、山田尚基、百崎 良、秋元秀昭、渡邊 修、安保雅博

12. 大腸癌術後の嚥下障害にてカフ付きスピーチカニューレで難渋した一例

東邦大学医療センター大森病院 リハビリテーション科¹、口腔外科²

宮城 翠¹、関谷秀樹²、大国生幸¹、伊豆蔵英明¹、海老原覚¹

13. 気管カニューレのカフは唾液の垂れ込みを防止しない

東京都立墨東病院リハビリテーション科¹、東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座²

新見昌央^{1,2}、安保雅博²

14. PAS system による重度片麻痺への治療効果の検討

新潟リハビリテーション病院リハビリテーション科

石川聖子、眞田菜緒、小股 整、菊池達哉、崎村陽子

15. 当院回復期リハビリテーション病棟に入院した脳神経疾患患者の就労状況について

武蔵村山病院 リハビリテーション科¹、外科²、歯科³

森豊浩代子¹、佐藤貴子¹、鈴木敬二²、元橋靖友³、鈴木活水¹

16. 当院回復期病棟における抗凝固薬内服患者の検討
総合リハビリテーションセンターみどり病院 神経内科¹、リハビリテーション科²
川村邦雄¹、近藤 悟²、和泉由貴²、佐藤 豊²
17. 簡易検査による自動車運転の適応性のスクリーニング
袖ヶ浦さつき台病院リハビリテーション科
村山浩通、川崎優典、高橋拓己、西川大輔、小久保聡、猪狩友行、竹内正人
18. 慢性疼痛疾患に対する認知行動療法に基づく運動促進法の有用性
新潟大学医歯学総合病院リハビリテーション科
木村慎二、野本規絵、村上玲子、眞田菜緒、張替 徹、遠藤直人

[総 会] 14:50～15:15

【第3部】 15:20～16:40 座長 木村 慎二（新潟大学医歯学総合病院 リハビリテーション科）

19. 一般病院におけるがんリハビリテーションの現状 —担当療法士インタビューより—
下越病院リハビリテーション科
張替 徹、野本規絵
20. 大腿骨近位部骨折の術後歩行獲得に関連する因子 —90歳以上の超高齢者について—
茨城県立医療大学附属病院整形外科¹、茨城県立医療大学医科学センター²、筑波大学附属病院
リハビリテーション部³
竹内亮子¹、六崎裕高²、俣木優木¹、渡慶次香代¹、後藤如代³、和田野安良²
21. 回復期リハのない地域でリハ科専門医に求められる役割 —当科入院実績より—
南魚沼市民病院リハビリテーション科
大西康史
22. 遺伝性痙性対麻痺に対するバクロフェン持続髄注治療の意義
自治医科大学 脳神経外科¹、リハビリテーション科²
中嶋 剛¹、森田光哉²

23. 当院における遺伝性痙性対麻痺に対するバクロフェンポンプ留置後の治療効果の検討
千葉大学医学部附属病院 脳神経外科¹、リハビリテーション科²、神経内科³
成田赤十字病院脳神経外科⁴
辛 寿全^{1,2}、樋口佳則¹、山中義崇^{2,3}、和泉允基⁴、黒岩良太²、浅野由美²、村田 淳²
24. 脳卒中後片麻痺患者の痙縮に対する F 波・H 波による評価の試験的検討
新潟リハビリテーション病院リハビリテーション科
小股 整、石川聖子、眞田菜緒、菊池達哉、崎村陽子
25. 平成 28 年熊本地震における JRAT 群馬活動報告
群馬大学大学院医学系研究科リハビリテーション医学分野
井上智貴、田澤昌之、黒崎みのり、和田直樹
26. 急性期におけるサルコペニアと HAD（入院関連機能障害）との関係
東京慈恵会医科大学附属柏病院¹、東京慈恵会医科大学附属第三病院²、東京慈恵会医科大学リハ
ビリテーション医学講座³
樋口謙次¹、中山恭秀²、安保雅博³
27. 脊椎転移の保存的治療
順天堂大学整形外科・リハビリテーション科・緩和ケアセンター
高木辰哉
28. 位置エネルギーの操作から歩行に必要な運動エネルギーを生み出す作用と片麻痺症例への応用
東京慈恵会医科大学附属第三病院¹、東京慈恵会医科大学附属柏病院²、東京慈恵会医科大学リハ
ビリテーション医学講座³
中山恭秀¹、樋口謙次²、安保雅博³

【講演1】 座長 村岡 幹夫（医療法人愛仁会 亀田第一病院リハビリテーション科）



「脳卒中リハビリテーションの新しい流れ」

…東海大学医学部専門診療学系リハビリテーション科学准教授 藤原 俊之

脳卒中片麻痺患者に対する Brain Machine Interface, HANDS 療法, 経頭蓋直流電気刺激治療、経頭蓋磁気刺激治療など、神経生理学的研究に基づく治療法を提唱してきましたが、現在研究中的の経皮的脊髄刺激を用いた FAST walk 開発の話題も交え、「脳卒中リハビリテーション医学の新しい流れ」についてお話しいたします。

ふじわら としゆき
(藤原 俊之 先生)

<略歴>

- 1993年 福井医科大学医学部卒業
慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室入局
- 2002年 Institute of Neurology (London UK) Research Fellow
- 2004年 慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室助手
- 2005年 慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室専任講師
- 2014年 東海大学医学部専門診療学系リハビリテーション科学准教授

【講演2】 座長 遠藤 直人（新潟大学大学院医歯学総合研究科整形外科学分野）



「リハビリテーション医学における超音波診療の有用性について」

……………医療法人城東整形外科診療部長 皆川 洋至

自著「超音波でわかる運動器疾患」は、国内のみならず海外でも広く普及し、レントゲン時代からエコー時代へのパラダイムシフトが始まっていることを印象づけるものとなりました。超音波診断学は機能障害の動的病態を評価するだけでなく、超音波ガイド下 fascia release をはじめ新たな治療法を創出することとなりました。皆様の明日からの診療に役立つ話題を広く提供したいと考えております。

みながわ ひろし
(皆川 洋至 先生)

<略歴>

- 1989年 自治医科大学医学部卒業後、秋田県内の複数の病院に勤務
- 1994年 秋田大学医学部附属病院整形外科医員
- 2001年 秋田大学医学部附属病院整形外科助手
- 2003年 米国 Mayo Clinic で肩関節の研究、臨床に携わる
- 2004年 秋田大学医学部附属病院整形外科講師
- 2006年 University of Texas Health Science Center で肩関節の研究、臨床に携わる
- 2008年 城東整形外科診療部長

共催 日本リハビリテーション医学会関東地方会
塩野義製薬株式会社